

【記者からの質問】

<Go To Travel キャンペーンについて その1>

毎日新聞／来週水曜日からはまるこの事業自体をどう評価しているか。この時期の実施についてどうとらえているか。感染者が70日以上出ていない自治体として懸念していることは？

知事／私は全国規模のキャンペーンに危惧していた。全国規模は調整に時間がかかる。早期に実施予定だったが、遅くなったと承知している。本来は、第一派が収まったころの実施だっただろう。今後の展開を、地域に任せてほしい。知事を信頼して、地域のほうから政策を組み立てていくことを考えてもいい。

県は、「高近長」として、県内、九州からの集客をメインに組み立てている。47都道府県も様相が全く異なり、旅館関係者の意識もそれぞれなので、地域ごとにやっていく。そのときのコロナの情勢で広域的な対応も可能で、一考の余地がある。

毎日新聞／近場での集客メインでも、お盆の帰省ラッシュで首都圏近郊からも多く人がくるのでは。感染予防策として、2週間待機など基準を設ける予定は？

知事／国の政策としてキャンペーンが行われると、一定数は来ると思う。昨日、観光連盟を中心に、各旅館で対応できるようにすると、国交大臣の話があった。佐賀県は独自で感染対策の基準を示しながら、各旅館に推奨している。具体的には観光課へ確認を。

毎日新聞／武雄市と佐賀市のクラスターについて。詳細な調査結果は、いまだ報道陣に公表されていない。広がり方がわかれば、今後、経営される店にとっても教訓になる。公表についての考えは？

知事／貴重な夜の街クラスター事例なので、詳細に検討していると思う。状況は把握していないので、担当から説明させたい。店名の公表から、念のため検査を幅広くかけたことで、抑え込みは成功したと思う。しかし、想定よりも広い感染だった。早めに抑えていなかったら、もっと根が残っていた。初動で抑さえ込むことを、都市部の皆さん方も参考にしてほしい。

日経新聞／コロナの往来について。東京で感染者が増えているが、どう評価するか。できるだけ控えるよう呼びかけを強める考えは？

知事／都の発表では、若い人が多く、夜の街関係も多いと。危惧しているのは、高齢者や持病の

ある人に感染すると重篤になること。東京は、3 世代同居のような形態の可能性が薄い。地方部に感染が飛ぶと、直接のリスクとして地方は向き合わないといけない。我々は、県内の 47 事例全てについて分析している。東京 23 区では区が対応し、都が直接執行しているのは限定的で、1 つの感染者について詰めが甘い。

オールジャパンで、1 回潰しにいかないと、たちごっこで止まらない状況になる。各県知事が責任を持って対応していく話。

日経新聞／Go To キャンペーンがある以上、首都圏から旅行者が九州に来ると思う。無症状や潜在的に抱えている人が気づかないまま来てしまうこともあり得る。控えてほしいという首長もいるが、どうか。

知事／佐賀県の素晴らしい観光素材をぜひ知ってもらいたい気持ちがあり、今の状況で話すのは難しい。

遠出する人が多くいるのかどうか。旅行しやすい環境は整うが、県として、全力で感染症防止対策をする。発生することを前提として、すぐ潰しにかかる準備をしておく。

サガテレビ／首都圏との往来の自粛要請の今後の見通し、その兼ね合いについて話を。

知事／できる限り首都圏往来の自粛をお願いしたいという趣旨は、国レベルでは、県境は往来可能という環境にある。その中で、新しい患者が 71 日間出ていないのはありがたい。これを続けていきたい。

県民の皆さんは、私と気持ちを共有していると思う。佐賀の関係者が行き来する場合もある。私も、今日も上京する。どうしても会わないといけない人か、それぞれがチェックする。首都圏の人に来ないと言える状況ではない。首都圏の状況について危惧されている中で、おのずと判断できる環境になっている。やむを得ない場合、佐賀にお越しにいただいている。その環境の中で全力を尽くす。

サガテレビ／佐賀県出身で東京在住者の、お盆の帰省についてはどう考えたらよいか。

知事／慎重に考え、体調・検温など整えた上で帰省を。体調に変化が出たときは、手を挙げてほしい。今まで、首都圏と佐賀で往来不自由で帰省できず、苦しんでいる子ども達もいると聞いている。今のうちから整えて帰省してほしい。

<新幹線西九州(長崎)ルート関連>

西日本新聞／午後は九州新幹線の「幅広い協議」の 2 回目。国交省から複数アセスの実施について説明がある。佐賀県が同意できないことを、国交省は最終回答と思っていないと言っているが、県として検討の余地はあるか？

知事／アセスについては部長のほうから答えたので、それが県の回答だと。

フルとミニについては、全く新しい話。短期間で判断がつく話ではない。合意したこと、約束されたことが守られていないので、違和感を持っている。例えば、新鳥栖―武雄温泉間について。与党検討委員会でJR九州と長崎県が、これまでの合意を無視し、一方的にフル規格を主張したこと。フリーゲージトレインについては、山陽新幹線の乗り入れができないとか、コストが高いとかわかっていて理由で突然断念された。6 者合意で議論の、肥前山口―武雄温泉間の全線複線化が一方的にほごにされている。長崎県に対し、誠意として応分の負担が約束されていたが、上振れが判明した途端に合意が必要だと言われた。そういった繰り返しは、合意したことを守る県の思いからは、乗るわけにはいかない。

西日本新聞／あらためて、国土交通大臣と会う予定は？

知事／今日も国交省から提案されると思う。我々としても部長のほうから、佐賀県の思いを話すことになる。

事務的な積み上げができる関係になったとき、大臣と話すタイミングもあるかと。まずは協議の場をお互いが大切にしていくこと。

<SSP杯について>

朝日新聞／資料では「熱いドラマが続々!」「今後の見所」とあるが、来年以降も高校総体で紹介していくのか。

知事／それは大きな論点。今までも高校生達はインターハイや甲子園の予選で盛り上がっていた。応援や試合ができる喜びをみんなが口にするようになったのは、とてもいいと思う。このSSPのレガシーを次年度以降に残したい。8 月閉幕の際、高体連や高野連も含めて話をしたい。「SSP」の名前を残せるやり方を検討する。

朝日新聞／「様々な人、企業・団体から温かい支援をいただいています」で、アメリカでの短期テニス留学などある。これは競技者の禁止事項として全国高体連の規程の第4条にある「大会参加により授与される賞金、高価な商品を受領すること」に違反するのでは？

知事／今回はコロナで急にSSP杯を仕立て、各企業からの支援の申し出があった。これからしっかりチェックする必要がある。佐賀県は、体育からスポーツへと先鞭を切っているので、ルール作りや支援のやり方が与える影響も検証、対応していきたい。

<Go To Travel キャンペーンについて その2>

佐賀新聞／県としては、やむを得ない場合は首都圏との往来の自粛を呼びかける立場だが、不要不急や旅行目的で来県する人との整合性についてどう思うか。

知事／全国的に感染が危惧されている中、健康管理など徹底した上で来てほしい。症状が出た場合は、ぜひ申し出してほしい。今の環境では感染が起きると思うが、すぐ対応できることで、次なる感染を防げる。県内の観光関係者とも意思のすりあわせをしておく。

読売新聞／キャンペーン開始を遅らせるべきとの意見についてどう思うか。また、地方への効果の波及が限定的との懸念について、政府に求めたいことは。

知事／国、東京都がどう考えているか、説明責任を果たしていかないといけない。

県は判断の下、対応していく。22日からのスタートは危惧するが、日本国民がどう考えて行動するのも大切。状況を踏まえながら対応できることが大事。

コロナ問題は先がわからない。都道府県、地域単位で対応できる体制の中で経済対策、社会対策をしていく形を取ったほうがいい。

NHK／県はこれまで死亡者がゼロだが、命を守る観点で、このキャンペーンをどう捉えているか。機動的対応の体制として、県の感染症指定医療機関や感染症外来に説明しているのか。

知事／観光の施策を国一律でやっている。47都道府県で状況が違う中、一律的なネット販売をすることがむちゃだと。

佐賀県に来るのは仕方がないので、感染が起きたときは、後が追えるように万全の体制をしたい。その形態を考え、感染予防で命に向き合ってきた医療関係者に対応していく。

国全体として、社会状況との両立を図られていることだと思う。

佐賀県は経済社会情勢を回復させる局面。「支え愛」の中で、医療関係者が危惧しているところ
ねに認識を持ち、連携していかないといけない。

<災害時の高齢者避難について>

今回の豪雨災害で、福祉施設の避難問題は大事だと再認識した。今後、福祉施設の状況把握
をしながら、空振り覚悟で垂直避難ができる体制を取っていきたい。